

若いなかま

若いなかま No.208

2020 (令和2)年 11月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : <https://fayd.jp/>



目次

異年齢交流で育て!

青少年育成キャンプ2~3

令和2年度定時総会開催3

青少年の健全育成を考える

「青少年育成 考」.....4

編集後記4

お詫びとお願い 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、編集会議をはじめとして、青少年健全育成関係行事の延期・中止、取材行動の自粛等で広報紙「若いなかま」の発行が遅れました。また、紙面についても縮小せざるを得なくなりました。県民会議の会員の皆様をはじめ、日頃より県民会議の活動を支援して頂いている方々や団体・企業の皆様に深くお詫びを申し上げます。今後は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に注視し、最大限の防止策を行いながら、できるだけ早期に従来の広報紙に戻し、さらにより良い、広報紙作成作業を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

令和2年度「異年齢交流で育て！青少年育成キャンプ」

とき 令和2年8月8日(土)～10日(月) ところ 国立諫早青少年自然の家

県民会議では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が進められている中、「withコロナ」の「育成キャンプ」を実施しました。学校では臨時休校措置や運動会、プール等の諸行事が中止になる等、子ども達の元気と思い出も少なくなっています。このような中、健全育成部会を中心に「中止を検討する」のではなく、「どうしたら実施できるのか」を検討し、様々な対策を行った上、関係各所の協力も頂きながら、実施期間を2泊3日間に短縮し、小中学生36名と高校生15名、大学生等以上のスタッフ12名の63名が参加しました。参加した子ども達は、日頃のストレスを思いっきり発散し、短い夏休みを満喫しました。以下概要を報告します。



この日の午後のプログラムは、

▼8月8日(土)第一日目
午前8時過ぎより、参加者達が県庁の正面玄関に出発前2週間にわたる、検温と体調の記録表をもって、受付を行いました。どの参加者も、今から参加する様々な活動にワクワク期待しているのが分かります。高校生以上の登録ボランティアの青年達が、検温・手指消毒等のコロナ対策を行いながら、テキパキと子ども達を誘導し、除菌運行できるバスへ乗車させました。バス席も距離を確保しての指定席です。途中のトイレ休憩も他の利用者が少ないSAを利用し、再乗車時にも手指消毒を行いました。自然の家には12時30分に到着しました。

到着後、別館の大広間で各班2m以上の輪になって、昼食を行い、入所式や任命式とプログラムを進めて行きました。任命式はキャンプ長が各班長と副班長に参加者全員の前で任命書を交付し、キャンプ中の責任感を培うものであり、職員には協力する心構えを考えさせるプログラムです。交付後の拍手はこの様な「決心」を確認するものになりました。

「沢登り」活動の予定でしたが、雨が激しくなり、雨量もさらに多くなる予想だったので、この日の沢登りプログラムは延期とし、変更プログラムを実施しました。変更プログラムは、サブリーダーの指導で非接触ゲームと記念品づくりを行いました。非接触ゲームは、友達と離れた位置からの「じゃんけん」で負けた方が足を開脚して、倒れた方が負けなどのゲームです。参加者は高校生から小学5年生までの異年齢集団で年齢や男女に関係なく、想像以上に楽しくゲームを行っていました。

その後は、「記念品づくり」を行いました。記念品は「ブンブンせみ」「スノードーム」「ロープ人形」の三種類で、各班は班毎に記念品作りを指導してくれるスタッフのブースを回りながら作成していきしました。子ども達は、作った記念品をお互いに見せ合ったり、オリジナルに変化させ楽しんでいました。


入浴後、大広間で「ネット・ゲーム依存と野外活動」の学習会を行いました。このプログラムは、現在問題になっている「青少年のネット・ゲーム依存問題」の学習を「育成キャンプ」の初日に行い、依存の状態と自分の依存度を知り、そのうえで、野外で友達と体を使って楽しく活動することが、依存を防ぐ一つの方法であること等を学ぶ学習です。子ども達の中には自らの依存度の結果に驚く者や学校の臨時休校中にゲームの時間が増えたことに気づく者もいて、野外活動中に学習することは意義あるものになりました。



▼8月9日(日)第二日目
朝6時に起床。6時20分から朝の集いを行い、検温と体調観察、ラジオ体操のあと、キャンプ長の挨拶、日程の確認が行われました。

9時より子ども達の人気ナンバー1プログラム「沢登り」を開始しました。別館から沢登りスタート地点まで約40分歩く途中、夕立のような雨が降ったが、既に水着等に替えている子ども達にとっては、気持ち良い、シャワー程度でありました。最後の難関、滑る山道に気を付けながらスタート地点に到着しました。コロナ対策のマスクを外して、真っ先に頭から水をかぶって、沢登りスタートです。水量は前日の雨で少し多く、子ども達のチャレンジ精神を満足させるものでした。班ごとにスタートして、年上の者が年下の者を助け、声を掛け合って登っていく。中には3メートルを超える水が流れる岩場を登った子も。登る時は、上から引っぱり、下から

ネット・ゲーム依存問題」の学習を「育成キャンプ」の初日に行い、依存の状態と自分の依存度を知り、そのうえで、野外で友達と体を使って楽しく活動することが、依存を防ぐ一つの方法であること等を学ぶ学習です。子ども達の中には自らの依存度の結果に驚く者や学校の臨時休校中にゲームの時間が増えたことに気づく者もいて、野外活動中に学習することは意義あるものになりました。



15th ANNIVERSARY


ココロがある。コタエがある。

誠実なココロで人と向き合い、ベストなコタエをご提案する。

それが、創立以来ずっと変わらない西日本シティ銀行の仕事です。

お客さまの人生のパートナーとして、企業の皆さまの事業のサポーターとして。

「総合力No.1の地域金融グループ」を目指して、私たちは挑戦し続けます。



西日本シティ銀行

©GRCORVISIONS

は支え合いながら、深いところでは、胸のところまで水深がありました。約1時間30分の沢登り活動は、高校生以上のスタッフの支援もあり、全員無事に大満足させるもので、どの子の顔も「コロナ」も吹っ飛ばすような、笑顔で輝いていました。



入浴後のプログラムは「集いの火」でした。これは、「育成キャンプ」に参加した意義と現在の成果と課題の整理、明日からの目標と「育成キャンプ」で学んだ事を日常的に

どのように活かすかを考えるものです。本来ならば野外で焚火をしながら、自然の静けさの中で実施する予定でしたが、当日は、あいにくの雨で、室内の大広間で行いました。中学2・3年生のしっかりした考えや班別の協議の影響を受け、低学年の小学5・6年生も「参加して良かった」「活かすキャンプにした」等、しっかりとした意見を述べていました。

▼8月10日(月) 第三日目

すぐにも雨が降りそうだったので、別館もず棟・きじ棟の荷物の整理と部屋の清掃を朝食前に行いました。班支援スタッフが手分けして事前検査を行い、退出前の消毒作業も手際よく行いました。その結果、参加者は荷物と雨が降り出す前に約300m離れた、本館・体育館まで移動することができました。(バ

スは、本館迄) 9時には体育館で朝食をとり、感想文作成を行い、時間的に余裕ができたので、班対抗のゲームも行われました。

最後のプログラム、解散式ではキャンプ長の挨拶の後、各班の班長に班員全員分の終了証が渡されました。その後、高校生スタッフ達の最後の出し物、各班から班付き高校生リーダーへの「感謝の色紙」贈呈が行われました。なお、退所式は「コロナ」対策で実施されず、昼食後、13時30分には自然の家を出発し帰路につきました。

今回の「育成キャンプ」は、一度は落ち着いた新型コロナウイルス感染拡大の第2波と言われていたタイミングでの実施でしたが、目的はあくまでも「実施する事」でなく、「青少年の健全育成を進める事」でした。今回、この目的を見事に達成できたのは、登録青年スタッフの存在は勿論、関係団体等の支援を頂いたからであります。また、参加者の皆さんの「安全に参加したい」強い気持ち、行く前2週間、終わって2週間の健康管理がきちんとできて、ウイルスを持ち込まなかったからです。本当にお疲れさまでした。この経験は、今後に大きな糧となることは間違いありません。

報告
〔令和二年度県民会議 定時総会〕

県民会議の定時総会は、定款に従い、五月に開催しています。ところがその準備に取り掛かる本年二月頃から新型コロナウイルス感染者が全国的に拡大し始め、四月には政府が「緊急事態宣言」を発するまでに至りました。そこで、県民会議会員の安全を最優先にしな

ら、改選後の新たな役員体制の下で令和二年度事業を行えるように、一般社団・財団法人法に基づき、県民会議の議決権を有する正会員全員へ提案して全員が同意すれば議案の可決及び報告があったと見なす「決議の省略」「報告の省略」手続きを執りました。

具体的には郵便で「提案書」「同意書」のやり取りを行い、理事、市町村民会議等百五十六人・団体の正会員全員から同意が得られたので、総会で「令和元年度事業報告及び収支決算」「役員選任」議案が承認され、「令和二年度事業計画及び収支予算」が報告されたと見なされました。

その後、会長、副会長選任に当たり同様に「決議の省略」手続きを執った結果、理事全員の同意と監事の異議ない旨の回答を得て、会長(代表理事)に長井政典理事(株式会社西日本新聞社元取締役・再任)、副会長に伊藤一義理事(北九州市青少年育成市民会議会長・再任)、中原憲幸理事(元県民会議専務理事・新任)、山内久幹理事(株式会社西日本シティ銀行地域振興本部副本部長・新任)が選任されました。

〔令和二年度青少年団体等被表彰者〕
本年度は、

【個人の部】佐々木節子氏(豊前市・活動年数17年) 山口捷海氏(太宰府市・9年) 井上継信氏(川崎町・45年)

【団体の部】太宰府小学校区通学合宿実行委員会(太宰府市・11年) 築上町青少年育成市民会議(築上町・12年) 青葉校区防犯組合青葉ジュニアパトロール隊(福岡市・13年) 明蓬館高等学校安宅本校(川崎町・10年) 筑後少年柔道連盟(久留米市・20年) 福岡県立三井高等学校ボランティア部(小郡市・26年) みやま市葦の会(みやま市・45年) が被表彰者に決定されました。

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

福岡銀行

赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

編集後記

本紙は通常では7月中旬に発行予定の208号である。今年は新型コロナウイルスの影響で総会は中止され書面決議に個人・団体永年表彰も通知送付に。広報委員会では会議も取材もできず発行日の変更も余儀なくされた。県民会議のほとんどの行事が開催できない中、青少年育成キャンプは8月8日に開催。規模を縮小・内容もコロナ対策をしながら細心の注意と準備をして実施。スタッフ・参加者その家族はいつもと違う緊張感をもって臨んだ。特に事務局関係者の苦勞・心労は推して知るべし。しかしその成果は予想以上。自粛生活の弊害でもある「ゲーム依存」や野外活動の意義をしっかりと学習。多くの気づきがあり人と人の繋がりの大切さ・有難さ・楽しさを実感した貴重な3日間。コロナ禍故に得た喜びをこらからの人生に役立ててほしい。

県民会議広報部会長 馬場京子

この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。

青少年育成考



「コロナ禍で県民会議の底力を見た」

(公社) 福岡県青少年育成県民会議 理事・副会長 中原憲幸

さる6月15日付けで引き続き役員(理事・副会長)に就任いたしました中原憲幸です。コロナ禍中の異例の手続きとなりましたが、関係各位の格別の御高配により御同意を賜り、誠にありがとうございます。心を新たに県民会議の更なる発展のために尽力してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

私事で誠に恐縮ですが、最近、久しぶりに飲んだ友人の別れ際の一言「スペイン風邪の対策も一番がマスク着用だったらしい。100年前と比べると医学は確かに進化しているけど日本人の心理は今も昔も同じで全然進歩していないよ。」(つまりデマや流言飛語に弱いこと?)。この彼の一言に興味をかきたてられて、早速調べてみることにしました。1919年に内務省が国民向けに出した「流行性感冒予防心得」には確かにマスク着用などの細かい記述されていておりました。例えば、①はやりかせ(スペイン風邪)にかからぬには、人の集まっている場所、電車、汽車などの内では必ず呼吸保護器(マスクのこと)をかけなさい②病人の部屋はなるべく別に、看護人の他はその部屋に入れたらならぬなど、新型コロナウイルス禍における一般的な対処、予防法に驚くほど似ています。またデマも似たり寄ったりで、100年前に「57度から60度近いお湯を飲めば予防になる」

などの根拠なき民間信仰のようなものが横行闊歩しておりました。現在でも同様な事が起こっており、例えば知り合いの医師からの情報だとして、「新型コロナウイルスは、26度から27度のお湯で死滅します。だから、たくさんのお湯を飲んでください。」とSNSで拡散されたらと報じられております。このようにデマ情報や誤った情報が簡単に拡散されるなど人間の恐怖の心理は時代を超えても共通しているようです。

ところで役目柄どうしても気になりますのが、コロナ禍中での県民会議の令和2年度事業計画の取り組み状況です。これは県民会議のネット配信や事務局から情報を極力得るように心掛けています。主要事業である「少年の野外学習事業」や「少年の主張福岡県大会」は、このほど成功裏に終わったところですが、開催を決定するまでには様々な感染防止対策の工夫、検討・議論が慎重に重ねられたことと推察しています。その努力が実って一人の感染者も出さず、改めて関係役員や指導者の皆様のご尽力やボランティアとして登録し積極的に協力・活動してくれた青少年(高・大学生)諸君、両行事に参加してくれた大勢の子ども達に敬意を表するとともに心から「お疲れ様でした。」と申し上げます。

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動を行っています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033
- 福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡営業部(普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569
- ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057

